

## 第7回愛南町海業推進会議 議事概要

開催日時 : 令和6年11月13日(水曜日)9時30分から11時00分

開催場所 : 愛南町役場本庁3階大会議室

参加者 : 中村町長、海業推進会議委員(20名)

事務局(水産庁1名、愛媛県4名、一般財団法人漁港漁場漁村総合研究所2名、  
愛南町役場海業推進室) ※水産庁、愛媛県1名はオンライン参加

一般来場者 : 4名

報道機関 : 2名(2社)

議事概要 :

会議冒頭、中村町長から開会挨拶。以下、流れに沿って記載。

### 1. これまでの振り返りについて

はじめに、海業推進会議のこれまで取組や6月の第6回会議以降の取組について、資料に沿って説明が行われた。

<海業推進会議のこれまでの取組について>

海業推進室の浜辺室長から、海業推進会議や愛南町の海業の立体構造イメージ、グラウンドデザインと各プロジェクトの関係、グラウンドデザインの核となる Umidas プロジェクト等、これまでの議論の振り返りについて説明が行われた。また、10月上旬の岩手県視察の概要についても紹介された。

また、海業推進室の清水主幹からぎょしょく20周年イベント報告、海業推進室の尾崎室長補佐から海業振興事業支援補助金の募集を12月27日(金)まで延期する旨が説明された。

<第6回海業推進会議以降の取組について>

岩手県視察の参加者から以下のとおりそれぞれの所感が報告された。

- ・移住者が核となり地域の人々を結びつけて地域の可能性を引き出す姿や様々な業界が連携し総合的にまちづくりに取組む姿が印象的だった。
- ・首都圏から距離がある観光地だが都市圏から距離があることは問題ではないと感じた。
- ・愛南町は、観光資源に恵まれていることを再認識した。
- ・役場や民間企業の隔たりがなく活発な議論がされており、震災から復興するために全員が熱い思いを持ってプロジェクトに取り組んでいると感じた。
- ・大槌町は、復興に思いのある外部人材の雇用が進んでいると感じた。
- ・海業だけでなく海を取り巻く様々な環境づくりが進んでいると感じた。
- ・大槌町は、「ふるさと科」と呼ばれる教育課程があり、小中学生に海洋教育を実施し、海業を通して郷土愛を育む取組が印象的だった。また、この取組に関わる熱意のある教育コーディネーターや拠点の存在が愛南町との違いだと感じた。
- ・「ふるさとを知る教育」をテーマに熱意のあるよそ者と地元で顔の広い人がキーマンとなって海業に取り組んでいることが愛南町との違いだと感じた。
- ・震災後に建設された防潮堤が、海と人との距離が離れる原因になっていると感じた。

- ・田野畑も拠点となる施設が充実しており、愛南にもこのような施設があったら良いと感じた。一方、キーマンのマンパワーで何とか回しており、継続性には不安を感じた。
- ・愛南町は、地域資源が多くあり過ぎて一つに絞れていないことが弱点だと感じた。
- ・田野畑村のサービスは充実していたが、若干停滞感があったため、継続性を考えながら海業を推進していく必要があると感じた。
- ・愛南町は、人材が少ないため、やる気のある人材が出てきた場合は、全力でサポートする体制づくりが重要であると感じた。
- ・お互い抱えている問題や悩みは、類似している部分があると感じた。
- ・岩手県では、全国から海業の先進事例を集めてシンポジウムを実施するなど行政のバックアップも強力だと感じた。
- ・防災と産業活動は切り離せないが、防災の一環として海業が活用できると感じた。

## 2. 愛南町海業のグランドデザインの進捗報告について

高橋委員から「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINAN ツアー生成プロジェクト」について、大野委員から「愛南町盛句満喫スタンプラリープロジェクト」について、海業推進室の清水係長から「愛南町ブルーカーボン創出プロジェクト」について、清水主幹から「愛南町ぎょしょくツーリズムプロジェクト」について、それぞれの進捗状況や課題、反省点について説明が行われた。

## 3. 今後の海業推進について

愛南町の海業の目的および、「愛南海業コンシェルジュ Umidas プロジェクト」について、資料に沿って説明が行われた。

### <海業の目的について>

高橋委員から、これまでの議論をまとめて海業の目的を図化した資料の説明が行われた。まず、自治体の機能について紹介が行われ、愛南町で長く幸せに生活するためには、自治体の維持が必要不可欠であることが説明された。そのためには人口を維持し、新しいコミュニティを増加させ、新規事業を創出して地域の競争力を高め、雇用を創出する循環が必要であり、「Umidas プロジェクト」がこの循環を回し、徐々に広げていくことが海業の目的として議論してきたことである旨の説明が行われた。

### <Umidas プロジェクトについて>

浜辺室長から、改めて愛南町の地域資源の紹介が行われた後、「愛南海業コンシェルジュ Umidas プロジェクト」の今後の方向性について説明が行われた。これまでの運営委員会の議論として、ぎょしょく教育とツーリズムの両輪で地域愛と地域活性化を図ることが示され、本会議の続きで開催される運営委員会にてぎょしょく教育の枠組みを紹介することが説明された。また、今後の検討体制や今後のスケジュールについても説明が行われた。

### 【その他、連絡事項】

事務局から、11時10分から運営委員会を開催すること、次回の海業推進会議を2月頃に開催すること、事後アンケートの提出を本日中にお問い合わせすることが説明された。

以上